**行動支援計画書と説明**

**セクション１：背景と機能アセスメント情報**

*（このセクションについては、『自閉症の人の機能的行動アセスメント（FBA）：問題提起行動の意味を理解する』の１８１－１８３ページを参照のこと。）*

子ども/クライアントの氏名：

支援チーム：

*支援に関わるすべての人を含める。これには、問題提起行動が生じたとき、または先行支援を実行する可能性があるときに存在すると考えられるすべての成人を含める必要がある。これにより、すべての関係者がトレーニングを受け、計画に関する重要なコミュニケーションに精通していることが保証される。問題提起行動が生じたときに、その場に保護者がいる可能性が低い場合でも（たとえば、学校での行動を見られない親の場合）、保護者も常にチームの一員と考え、常に情報を提供し、発言を許すべきだということを忘れないこと。*

チーム・リーダー：

*この人が支援中の連絡先になることを確認すること。具体的には、質問や懸念が生じた場合に、すべてのチーム・メンバーからこのリーダーは連絡を受け、異常な状況についてすべて報告を受け、データを常に把握し、必要に応じて計画を変更する責任を負わなければならない。*

問題提起行動：

*問題提起行動の「操作的定義」を用いること。言い換えれば、その問題提起行動を見た人は誰でも、その行動だと認識でき、他の行動とは区別できるように、その問題提起行動を説明すること。この定義は、チーム・メンバーがその行動を測定およびカウントするのに役立つはずである。*

測定計画：

*ベースライン中に選んだ測定値を引き続き使用して、支援前後の問題提起行動の比較を継続的に実施できるようにする。*

行動に取り組む理由：

該当するものをすべて選択してください：

* 自己への危険　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　□ 他者への危険
* 物的損害のリスク　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　□ 本人への非難や排除
* 自身の適応行動（すなわち、友達を作る、学習などの目標を成功裏に達成する能力）を妨げる
* 他者の適応行動を妨げる
* その他

使用した機能アセスメント方法：

*このセクションに記入するには、FBAに戻ってそれを参照してください。（詳しくは、『自閉症の人の機能的行動アセスメント（FBA）：問題提起行動の意味を理解する』の１８１－１８３ページを参照のこと。）*

該当するものをすべて選択してください：

* 非構造化観察　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　□　構造化観察
* インタビュー　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　□　記述分析
* 仮説検証　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　□　機能分析
* その他

行動の機能：

該当するものをすべて選択してください：

* 注意を引く　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　□　何かから逃避/回避する
* モノ/活動へのアクセスを獲得する　　　　　　　　　□　自動強化
* 特別な考慮事項

*第７章の特別な考慮事項を参照してください。*

**セクション２：先行事象に基づく支援**

特定したセッティング事象：

*セッティング事象チェックリスト（付録A）を使用する。*

セッティング事象に対して計画した対応：

*第３章の提案を使用する。*

動機づけの支援：

*問題提起行動のEOを減らし、AOを作る。（提案については、第３章を参照のこと。）*

その他の先行支援：

*弁別刺激の変更を考える。（提案については、第３章を参照のこと。）*

**セクション３：機能的代替案の指導**

代替スキルの指導：

*第4章の提案を使用する。*

**セクション４：結果事象に基づく支援**

*以下のセクションは、児童生徒、またはクライアントに適用するもののみ記入する。*

強化に基づく支援：

*第４章（DRI、DRA、DRH）および第５章（DRL、DRO）で説明したさまざまな分化強化スケジュールを検討する。*

消去に基づく支援：

*問題提起行動の強化をやめるかどうかを決める。そのやり方を具体的に書く（たとえば、ジョーイが「チーズクラッカー！」と叫んでも、２分以内にはチーズクラッカーを与えてはならない）。*

弱化に基づく支援：

*必要に応じて、第５章で説明した正の弱化と負の弱化の両方を検討する。*

**セクション5：計画を軌道に乗せる**

計画を再評価するための基準：

*問題提起行動の増加、または問題提起行動の不十分な減少を再評価するまでの期間を設定する。*

計画をフェイディングするための基準：

*計画をあまり介入的ではないレベルにとフェイディングする前に、本人が問題提起行動のレベルを一定の低さで維持すべき期間の目標を設定する。フェイディングの具体的な手順と、もっと介入的なレベルに戻す場合の基準を必ず決める。*

習得の基準：

*もはや計画は必要ないと判断するための行動基準を設定する。*

危機介入方法：

*必要に応じて、行動が危険になった場合の対処方法を書く。第１０章の予想外の危険な行動の説明を参照のこと。*

行動計画にグラフを添付する

*支援開始を示すために、フェイズの変更ラインを追記したら、アセスメントとベースライン・データのグラフを使うことができる。*

*行動計画のグラフを添付してください。*

（グラスバーグ著「自閉症の人の問題提起行動の解決」（明石書店）p.192-6より）